

連載第50回

「カラボギャラリー」見学報告(第3回)

桑山 哲郎

“Col.lab Gallery” 3rd tour report

東京工芸大学カラボギャラリー第10回企画「色を記録する展」の見学報告です。第1回¹⁾、第2回²⁾の報告に続きますが、今回はカラー画像技術の歴史に興味を持っている人にとって、見逃すことができない内容です。会期は2022年12月12日から2023年3月10日でしたが、開始早々の12月14日に訪問、展示ディレクターの矢島仁先生から解説していただきました。小西本店の技術部門六櫻社の技師長でのち東京写真専門学校(現東京工芸大学)教授であった江頭春樹先生の研究³⁾に関連の資料を基にした展示です。

会場に展示されている品々はすべて東京工芸大学の所有で、技術史上重要な物ばかりですが、ごく一部だけの紹介になります。Fig.1は企画全体の印象が伝わる、パンフレットの表面です。幸い、ポイントとなるカラー画像と的確な解説文を掲載した、パンフレットの裏面がwebサイト⁴⁾より入手できますのでご参照ください。

会場に入ると周囲を圧しているのがFig.2の3色分解方式の35mm映画カメラです。技術内容はFig.3の大型のパネルで解説されています。正確な光学系の配置図と、目前の実物を参照して機構の理解が進みます。35mm映画フィルムのリールが3本同軸で並んでいることで、大型のカメラになっています。1955年公開の映画「緑はるかに」からこの「コニカラー映画システム」の使用が始まり、多くのエピソードが伝わっています。

カラー印画技術については、当時の小西本店六櫻社(現在のコニカミノルタ株)、時代により会社名がいろいろ変わっていますが)の研究が大変先進的だったことが分かります。戦争による研究の中断が無ければ、世界をリードする製品開発が実現していたのではないかと思います。Fig.4は3色分解ネガの展示、Fig.5はトライパック方式、3枚の分光感度が異なるシートフィルムを重ねて撮影する方式の展示です。80年を超えても良好な色を保つ印画サンプルと数多くの3色分解ネガなど、貴重な資料の多くがまだその技術背景を解明できていないということで、今後の研究の進展に期待したいと思います。

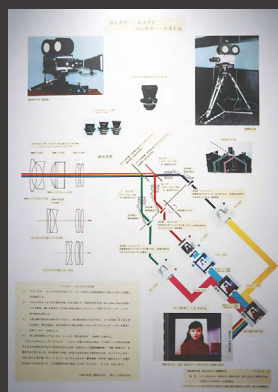
なお、東京工芸大学の芸術学部と工学部の成果を展示するコーナーがあり、映画作品「笹色の紅・Grünen Metallganz」を視聴することもできました。

文献等

- 1) 桑山哲郎, 連載第38回「カラボギャラリー」見学報告, 日本色彩学会誌, 第44巻第6号, 246 (2020).
- 2) 桑山哲郎, 連載第48回「カラボギャラリー」見学報告(第2回), 色彩学, 第1巻第4号, 212 (2022).
- 3) 江頭春樹, 転写法による三色印画に就いて, 日本写真学会会誌, 第3巻4号, 304 (1937)
https://www.jstage.jst.go.jp/article/photogr1934/3/4/3_4_304/_article/-char/ja
- 4) カラボギャラリー第10回企画展 webサイト
<https://collab.t-kougei.ac.jp/10th-exhibition/>



①



③



⑤



②



④

Fig.1 第10回企画展案内パンフレットの表側
Fig.2 KCC400型3色分解方式35mm映画カメラ(2022年12月14日著者撮影 以下同じ)
Fig.3 「コニカラー映画システム」説明パネル
Fig.4 3色分解ネガ
Fig.5 「さくら三色用フィルム」によるトライパック撮影(モデル 明日待子)